

シラバス

指定番号 : 152
商号又は名称 : 株式会社アットホーム

科目番号・科目名	(1) 職務の理解			
指導目標	研修課程全体の構成と各研修科目相互の関連性の全体像をあらかじめイメージできるようにする 介護保険サービスの導入の経緯について理解させる。 介護職が働く現場や仕事の内容を、できる限り具体的に理解させる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 多様なサービスと理解	3	3		<講義内容> (1) 多様なサービスの理解 ・介護保険サービス(在宅・施設)の導入の背景、制度の基本、介護保険外サービス
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	3		<講義内容> (1) 居宅、施設など多様な介護現場におけるそれぞれの仕事内容 ・実際のサービス提供現場の具体的なイメージ ケアプランの作成からサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れ ・チームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携 (2) 初任者研修の位置づけとねらい <演習の実施方法> ・「介護職の仕事の内容」についてグループでディスカッションをする。
③				
④				
⑤				
(合計時間数)	6	6		

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 : 152

商号又は名称 : 株式会社アットホーム

科目番号・科目名	(2) 介護における尊厳の保持・自立支援			
指導目標	利用者及びその家族の要望にそのまま応えるケアと自立支援・介護予防という考え方に基づいたケアの違いを、具体的な事例を示しながら気づいてもらう。 利用者の自立支援のため、残存能力を効果的に活用しての重度化の防止や遅延化を行うケアについて理解してもらう。利用者の尊厳や身体拘束等虐待の定義と高齢者虐待について理解してもらう。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 人権と尊厳を支える介護	3	3		<講義内容> (1) 人権と尊厳の保持 ・人間の尊厳と自立 ・ノーマライゼーションの意義 ・個人の尊厳と法制度 (2) 人権擁護の基本的視点 ・高齢者虐待 ・利用者の尊厳の保持 <演習の実施方法> ・事例を基にしてグループでディスカッションをする。
② 自立に向けた介護	4	4		<講義内容> (1) 介護の基本的視点 ・介護サービスの社会的役割 ・福祉理念と介護サービス ・サービス提供の基本的視点 (2) 介護予防 <演習の実施方法> ・事例を基にしてグループでディスカッションをする。
③ 人権啓発に係る基礎知識	2	2		<講義内容> ・人権とは ・人権への取り組み
④				
⑤				
(合計時間数)	9	9		

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
 ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
 ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
 ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
 ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 : 152
商号又は名称 : 株式会社アットホーム

科目番号・科目名	(3) 介護の基本			
指導目標	介護職の目指す基本的なものは何かを説明でき、介護の専門性について列挙できる。介護職として共通の基本的な役割とサービスごとの特性、他職種との連携を理解する。介護職の職業倫理の重要性を理解する。介護職が直面する事故や感染等のリスクを認識する。介護職が被りやすい健康障がいやストレスに対する健康管理やストレスマネジメントのあり方等を理解できる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護職の役割、専門性 と他職種との連携	2	2		<講義内容> (1) 介護環境の特徴の理解 ・地域包括ケアシステムの特徴と役割 (2) 介護の専門性 ・専門職としての介護 (3) 介護に関わる職種 ・他職種連携
② 介護職の職業倫理	1	1		<講義内容> (1) 介護サービスの公共性と職業倫理 (2) 利用者・家族に対する責任 ・利用者の自己決定の尊重 (3) 社会に対する責任 ・介護職における倫理 <演習の実施方法> ・事例を基にしてグループでディスカッションをする。
③ 介護における安全の確保 とリスクマネジメント	2	2		<講義内容> (1) 介護における安全の確保 ・サービス提供と安全管理体制 (2) 事故予防安全対策 ・リスクマネジメント (3) 感染対策のための基本的知識 ・感染の原因と経路について <演習の実施方法> ・事例を基にしてグループでディスカッションをする。
④ 介護職の安全	1	1		<講義内容> (1) 健康管理とストレスマネジメント ・介護職員のこころとからだの健康管理 ・腰痛の予防 <演習の実施方法> ・事例を基にしてグループでディスカッションをする。
⑤				
(合計時間数)	6	6		

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 : 152

商号又は名称 : 株式会社アットホーム

科目番号・科目名	(4) 介護・福祉サービスの理解と医療の連携			
指導目標	介護福祉制度や障がい者総合支援制度を担う一員として制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護保険制度	3	3		<講義内容> (1) 介護保険制度創設の背景と目的および動向 ・介護保険制度創設の背景 (2) 介護保険制度の仕組み ・保険給付とその種類 ・要介護・要支援の認定の手順 (3) 制度を支える組織などの機能と役割 (4) ケアマネジメント
② 医療との連携とリハビリテーション	2	2		<講義内容> (1) 医行為と介護 ・医行為への介護者の対応 (2) 医療と介護の連携 ・疾病構造の変化と高齢化 (3) ハビリテーション職種との連携 <演習の実施方法> ・事例を基にしてグループでディスカッションをする。
③ 障がい者総合支援制度およびその他制度	4	4		<講義内容> (1) 障がい者福祉制度の理念 ・障がい者の自立と社会参加 ・法制度の理念と障がいの概念 (2) 障がい者・障がい者自立支援制度の仕組みの基礎理解 (3) 個人の権利を守る制度の概要 ・個人情報保護法 ・成年後見人制度 <演習の実施方法> ・事例を基にしてグループでディスカッションをする。
④				
⑤				
(合計時間数)	9	9		

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 : 152
 商号又は名称 : 株式会社アットホーム

科目番号・科目名	(5) 介護におけるコミュニケーション技術			
指導目標	高齢者や障がい者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なる。共感、受容、傾聴的態度といった基本的なコミュニケーション上のポイントおよび留意点を踏まえて相手の心身機能に合わせた配慮が必要なことを気づいてもらう。家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と介護における相談援助技術の重要性を理解し、介護職として持つべき視点を列挙できる。チームケアにおけるコミュニケーションの重要性について理解してもらう。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護におけるコミュニケーション	3	3		<講義内容> (1) 介護におけるコミュニケーションの技法 ・生活場面におけるコミュニケーション ・相談援助技術の重要性 (2) 利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ・家族とのコミュニケーション (3) コミュニケーション技術の実際 ・利用者の状況、現状に応じたコミュニケーションの実際 <演習の実施方法> ・事例を基にしてグループでディスカッションをする。
② 介護におけるチームのコミュニケーション	3	3		<講義内容> (1) 観察、記録、情報伝達 ・チームアプローチ (2) コミュニケーションをうながす環境 ・共感的理解や情報の共有 <演習の実施方法> ・事例を基にしてグループでディスカッションをする。
③				
④				
⑤				
(合計時間数)	6	6		

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 : 152
 商号又は名称 : 株式会社アットホーム

科目番号・科目名	(6) 老化の理解			
指導目標	加齢・高齢化に伴う生理的な変化や心身の変化や特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化や特徴についての知識をみにつけることの必要性にきづいてもらう。 高齢者に多い疾病の種類と、その症状や特徴及び治療・生活上の留意点、及び高齢者の疾病による症状や訴えについて列挙できる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 老化に伴うところとからだの変化と日常	2	2		<講義内容> (1) 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ・知覚、感覚、注意力、記憶、知能、感情、性格の変化 (2) 老化に伴うからだの変化と日常 <演習の実施方法> ・事例を基にしてグループでディスカッションをする。
② 高齢者と健康	4	4		<講義内容> (1) 高齢者の疾病と生活上の留意点 ・機能の変化と病気、日常生活への影響 (2) 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 <演習の実施方法> ・事例を基にしてグループでディスカッションをする。
③				
④				
⑤				
(合計時間数)	6	6		

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 : 152
 商号又は名称 : 株式会社アットホーム

科目番号・科目名	(7) 認知症の理解			
指導目標	認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方について概説できる。健康な高齢者の「もの忘れ」と、認知症による記憶障がいとの違い、認知症の基本的特性等を列挙できる。認知症の利用者とのコミュニケーションの取り方や介護の原則、健康管理の重要性と留意点、廃用症候群予防について概説できる。家族の気持ちや、家族が受けやすいストレスについて列挙できる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 認知症を取り巻く状況	2	2		<講義内容> (1) 認知症ケアの理念 ・認知症介護の基本原則 ・最新の認知症ケア
② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1	1		<講義内容> (1) 認知症の概念 ・認知症と物忘れ (2) 認知症の原因疾患とその病態 ・認知症の種類と原因 (3) 原因疾患別のケアのポイントと健康管理
③ 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2	2		<講義内容> (1) 認知症の人の生活障がい、心理・行動の特徴 ・行動・心理症状の具体的対応 (2) 認知症の利用者への対応 ・日常生活支援と環境整備 ・心理学的援助 <演習の実施方法> ・事例を基にしてグループでディスカッションをする。
④ 家族への支援	1	1		<講義内容> (1) 認知症家族介護者の現状の理解 ・家族介護者の介護負担 ・認知症ケアとは (2) 認知症をもつ人の声、そして家族の声 <演習の実施方法> ・事例を基にしてグループでディスカッションをする。
(合計時間数)	6	6		

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
 ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
 ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
 ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
 ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 : 152
 商号又は名称 : 株式会社アットホーム

科目番号・科目名	(8) 障がいの理解			
指導目標	障がいの概念と ICF について概説できる。 各障がいの内容・特徴および障がいに応じた社会支援について列挙できる。 障がいの受容のプロセスと基本的な介護の考え方について列挙できる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 障がいの基礎的理解	1	1		<講義内容> (1) 障がいの概念と ICF ・ ICF の考え方 (2) 障がい者福祉の基本理念 ・ ノーマライゼーション ・ リハビリテーション ・ インクルージョン ・ 事例を基にしてグループでディスカッションをする。
② 障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的理解	1	1		<講義内容> (1) 身体障がい (2) 知的障がい (3) 精神障がい (4) 難病
③ 家族の心理、かかわり支援の理解	1	1		<講義内容> (1) 家族への支援 ・ 障がいの理解・障がいの受容支援 ・ 障がいの受容の理解
④				
⑤				
(合計時間数)	3	3		

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
 ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
 ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
 ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
 ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 : 152

商号又は名称 : 株式会社アットホーム

科目番号・科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標	介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得する。安全な介護サービスの提供方法等を理解し、一部または全介助等の介護が実施できる。尊厳を保持し、その人の自立および自律を尊重し、持てる力を發揮してもらいながらその人の存在・地域等での生活を支えるための介護技術や知識を習得する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護の基本的な考え方	3	3		<講義内容> (1) 介護の基本的な考え方 ・理論と法的根拠に基づく介護 ・基本的な介護技術の原則の介護サービス (2) 重点化防止の視点 ・予防重視型システム ・介護予防
② 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3,5	3,5		<講義内容> (1) 高齢者の心理 ・加齢に伴う変化とその心理 (2) 自己実現と生きがいづくり ・喪失体験と生きがい ・感情と意欲の基礎知識
③ 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	3,5	3,5		<講義内容> (1) 人体の名称とはたらきの基礎知識 (2) 運動動作に関する基礎知識 ・身体の動きの基本 ・ボディメカニズムの原則 (3) 神経系に関するからだのしくみ ・中枢神経と体性に関する基礎知識 (4) バイタルチェック
④ 生活と家事	3,5	3,5		<講義内容> (1) 家事と生活の理解 ・家事援助の必要性と目的 ・信頼関係、秘密保持、利用者の価値観 (2) 家事援助に関する基礎知識と生活支援
⑤ 快適な居住環境整備と介護	3	3		<講義内容> (1) 住環境整備 ・快適な居住環境に関する基礎知識 (2) 福祉用具の活用 ・様々な福祉用具とその活用方法 <演習の実施方法> ・「高齢者や障がい者にとって快適な居住環境等について」グループで考える。

<p>⑥ 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>7</p>	<p>7</p>		<p><講義内容> (1) 整容に関する基礎知識 ・整容の支援方法 (2) 衣類の脱着の介護 ・衣類の脱着介護のポイント <演習の実施方法> ・グループに分かれ整容についてロールプレイングをする。</p>
<p>⑦ 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>11</p>	<p>11</p>		<p><講義内容> (1) 体位・姿勢の基礎知識 ・体位・姿勢の介護のポイント・褥瘡の予防 (2) 移乗の介護 (3) 車いすでの移動の介護 ・移動介助の具体的な方法 (4) 移動の介護 ・移動のもつ意味や外出の介護 <演習の実施方法> ・グループに分かれて移動、移乗についてロールプレイングを行う。</p>
<p>⑧ 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>7</p>	<p>7</p>		<p><講義内容> (1) 食事に関する基礎知識 (2) 食事の介助 ・食事の介護のポイント (3) 口腔ケアの支援技術 ・口腔ケアの基礎知識 <演習の実施方法> ・グループに分かれ食事介助等についてロールプレイングを行う。</p>
<p>⑨ 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>7</p>	<p>7</p>		<p><講義内容> (1) 入浴、清潔保持に関する基礎知識 ・入浴や清潔保持の意味 (2) 入浴の介護 ・障がい別の入浴の環境と介護 (3) 身体の清潔の介護 ・全身清拭、陰部洗浄、足浴、手浴 (4) 整容の支援技術 <演習の実施方法> ・グループに分かれ入浴、清潔保持等についてロールプレイングを行う</p>
<p>⑩ 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>7</p>	<p>7</p>		<p><講義内容> (1) 排泄に関する基礎知識 (2) 排泄の介護 ・排泄環境整備と排泄用具 <演習の実施方法> ・グループに分かれ排泄に関連したロールプレイングを行う。</p>
<p>⑪ 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>3</p>	<p>3</p>		<p><講義内容> (1) 睡眠に関する基礎知識 ・睡眠の意味と仕組み (2) 睡眠の介護 ・環境整備と睡眠に関連した用具 <演習の実施方法> ・グループに分かれベッドメイキング等についてロールプレイングを行う。</p>

⑫ 死にゆく人に関連したところからだのしくみと終末期介護	3	3	<講義内容> (1) 終末期ケアに関する基礎知識 ・終末期のこことからだのしくみ (2) 終末期ケア ・緩和ケアと家族へのケア (3) 看取りの介護 ・ターミナルケアの対応のしかたと留意点 <演習の実施方法> ・グループによりケース・スタディをする。
⑬ 介護過程の基礎的理解	7	7	<講義内容> (1) 介護過程の基礎的理解 ・介護過程の目的、意義、展開 (2) 介護課程の展開 <演習の実施方法> ・事例を基にしてグループでディスカッションをする。
⑭ 総合生活支援技術演習	6,5	6,5	<講義内容> ・事例による展開として、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得 ・利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点の習得 (1) 要介護者・家族介護者への援助 (2) 要支援者への支援 <演習の実施方法> ・グループに分かれロールプレイをする。(1)(2)の2事例で実施する。
(合計時間数)	75	75	

使用する機器・備品等	(別添2-6) 実技演習使用備品一覧表に記載した備品を使用する。
------------	----------------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 : 152
商号又は名称 : 株式会社アットホーム

科目番号・科目名	(10) 振り返り			
指導目標	10 科目にわたる研修全体を振り返りながら、講義や研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことを講師とともに振り返る。特に、利用者の状態像に応じた介護と介護課程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性といった根拠に基づく介護についての要点を再確認する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 振り返り	3	3		<ul style="list-style-type: none"> 根拠に基づく介護（利用者の状態に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等）についての要点を振り返る。 介護職として今後どのような仕事を行うのかを具体的にイメージするようにする。
② 就業への備えと研修修了後における事例	1	1		<ul style="list-style-type: none"> 介護職の将来の見通しとキャリアパスの全体像 専門家としての心構え 事業所における事例
③				
④				
⑤				
(合計時間数)	4	4		

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。